



日本マス・報道

[ホームページ](#)

<http://jamja.hp.infoseek.co.jp/>

2007年9月1日
JMJA-News 第5号

日本マスターズ柔道協会

NY 157-0063

東京都世田谷区粕谷3-30-1

電話03(3326)3333

FAX 03 (3305) 7301

発行 会長 野口宏水

最も遠い国が最も身近な国に!
第9回世界マスターズ柔道大会



6月22日 サンパウロ総領事館で西林総領事を囲んで

ブラジル大会を振り返って

会長 野口宏水

本年は大会九回目にしてはじめての南半球、文字通り、

田まで13日間の長い旅行を共にした。

出場のみの一四名を除く三二名は、大会後もブラジルからアルゼンチンを経て成

もトウル大会に参加し、
ラジルを故国に持ち日本企
業在勤十一年になる滋賀県
在住の松本淳四段であり、

日本と季節も昼夜も真反対の南米ブラジルはサンパウロにて、形と試合で『世界のメダル』を競い合いました。三七名

今回の大会参加者のうち、第五回講道館大会を除いた海外での世界大会への初参加者は八一才最年長の太田尚充八段(青森県)、七三才の岡田庫

大学英文学教授、斎藤孝滋
三段で、お二人ともご自分
の環境を最大活用して本大
会連続ご出場は「ご立派！」
という以外に言葉はない。

ました。三七名の大会出場者と九名の応援家族の合計四六名が参加。この内仕事等のため大会

段（青森県）、七三才の岡田庫二郎八段（兵庫県）に国重敏明八段のお三方で、奇しくもお三方とも八段の先生で、これにより八段位者が、高橋勘十八段に清水正敏八段と、外国

形並びに試合の結果は表の通りです。それぞれ全員今まで培ってきた技をこの一戦に心身の全力を結集して出場したものです。

ブラジル・ニッケイ新聞

2007年 6月 22日 (金曜日)

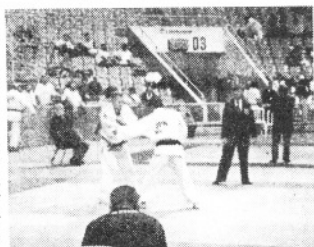
世界
タマ
スズ
柔道、
聖市で

日本からも選手団40人

力の欧米、技の日本

人柔道人から見れば豪華横綱揃い踏み、眩いばかりの講道館高段者の一行である。これに對する。若年者は、昨年

大会一日目は形。全員世界の頂点に立つことを期して会場に入る。女子：横山・大森組の三種目ゴールドは、昨年トウル大会三種目ゴールドに続く連覇となり、宗主国日本でも頂点に



イビラプエラ体育館で世界マスターズ柔道。20日



6月22日サンパウロ・柔道オリンピック・アリーナでの交歓稽古を終って



グラント・ゴールドメダルの表彰を受ける野口会長

立っているご両人の優勝は当然としても、男子の場合、外国勢の取り組みは悔りがたく、参加者も多く、その中にある重厚な五の形の毛利・清家組、並びに古式の形での清水・清家組のゴールドは大いに賞賛に値する。

大会二日目はM5(50、54才)からM11(80才以上)までの体重別試合で、我が日本軍団は殆どがこの日に出場。表彰式では昨年同様、「君が代」が鳴り止まず日章旗を誇らしく翳すゴールドメダリストの凱歌で騰がった。尚、私事ですすが、試合の部で、九九年第一回参加以来連続八回出場、内七回ゴールド(二回シルバー)のかどで「グラント・ゴールド・メダリスト」として、世界マスターズ協会よりアメリカのF・テヒスタ、N・I.のT・ワットの二人と共に表彰を受けたのは、協会の運営に関

しては異議あるものの、嬉しく、小生の出場を支えて下さった多くの方々、マスターズ仲間、そして生涯柔道を続けさせてくれる妻に感謝しております。

今回の交歓稽古は、全伯講道館有段者会(岡野修平会長)にお願ひして、同会が日伯両

国政府に働きかけて本年三月悲願新装なつたばかりの柔道オリンピック・アリーナ(南米講道館、緩衝材敷き三百畳)で行われた。稽古には、同会

の篠原名誉会長始め岡野会長、関根副会長、早稲田柔道部出身でブラジルへ雄飛 ブラジルに初のオリンピック柔道メダル(ミュンヘン銅メダリスト)を齎し、今日のブラジル柔道会へのメダルラッシュの嚆矢となった石井千秋氏、又世界マスターズの形部門で第三回辺りから常勝のR.内田

ほか大勢のジュウドウ家が参集。親善交歓とは云え存分に汗だくとなった。清水副会長は副団長はかつての早慶戦宜しく石井メダリストを相手に大汗を掻いていた。

次いで、岡野会長より世界マスターズゴールドメダリス

トの形を見せて欲しいとの要請があつて、清水八段・清家七段による古式の形及び毛利七段・清家七段による五の形が全員正座の裡に莊重に演じられ、大拍手のうちに交歓稽古の幕を閉じた。

その後、大きなレストラン

を半分借りきり、本物の、止まることなく出てくるシュラスコ肉とビールとウィスキーとその他飲み物の懇親会となり、汗を流した互いの顔は、ブラジル人日本人の区別なく、心は国境を越えた「草の根外交」そのものであった。

第9回世界大会

メダリスト

形(取右・受左)

金

柔の形

女子 横山悦子
大森千草

古式の形

男子 清水正敬
清家春夫

五の形

男子 横山悦子
大森千草

女子 毛利修
清家春夫

銀

固の形

男子 永島健次郎
大矢秀昭

金

試合

男子
太田尚充 81
高橋勘十 76
森本唯之 75
野口宏水 72
杉原尚 71

MMMM
9 9 10 10 11
60 73 90 73 90
kg kg kg kg kg
級級級級級

銀

男子

山本健夫 71
永島健次郎 69
内藤純 66
清家春夫 62
中村茂晴 55

M 9
無差別

大矢秀昭 77
安河内浩 75
岡田庫二 73
坂本ヒロミツ
粗田盛良 65
伊藤久雄 62
来田武 62
原優

MMMM
6 7 8 8 9 9 10 10
66 73 73 60 66 60 73 66
kg kg kg kg kg kg kg kg
級級級級級級級級

銅

男子

小川栄一郎 72
福盛田立明 69
鬼柳一宇 67
中島忠 67
川久保精祐 67
毛利修 67
国重敏 65
宿利憲 64
大上敏幸 64
上木保男 56

MMMM
6 7 7 8 8 8 8 9
90 90 66 81 81 73 66 60 60 60
kg kg kg kg kg kg kg kg
級級級級級級級級



大会二日目 M5~11試合の表彰式の後で、中央右 篠原先生



大会1日目 形の表彰式の後で

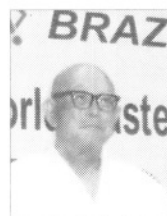
世界マスターズ大会に

参加して

太田尚充

(青森県柔道連盟会長)

野口会長さんはじめ、会員



皆さんの親

切な後押し

のおかげで、

はじめて世

界マスター

ズ柔道大会

に参加することができました。

年長者ということで、いろいろ

と気を遣っていたいただき、そ

の気遣いに甘えたり励まされ

たりしての、ブラジル・サンパ

ウロ大会への参加でした。こ

こに、改めて厚くお礼申し上げ

る次第です。有難うござい

ました。

とくに、野口会長さんには

同室をお願いして、万事にこ

指導を賜わり、いろいろとご

面倒をおかけしました。おか

げで、はじめての世界大会へ

の参加を、どうにか無事に終

えることができた、感謝の

気持ちでいっぱいです。

また野口会長さんが、サン

パウロ在住の三田会の方や佐

のご好意に甘えてご相伴に預かりました。お互いに懐かしく久しぶりにお会いすることなので、お話しも自然に豊かなり、私はそれらの楽しそうなお話に耳を傾けながら、友情の深いつながりに感銘を受けたものでした。野口会長さん、いろいろと有難うございました。これからまた、ご指導のほど、よろしくお願い申し上げます。

試合では、八十歳以上の方が私以外に参加者がなく、ブラジルまで行ったのに試合はできませんでした。これには、残念という気持ちが半分と、ホッとしたという気持ちが半ばし、複雑でした。

それでも、とにかく試合の順番が進んで自分の名前が呼ばれ、試合場に出て、審判員から不戦勝ちの宣告を受けたとき、自分は試合者として勝った立場になったのだと喜びが湧いてきました。またこの時、これを見ていた日本の応援席はじめ、多くの方々から祝福の拍手をいただいた時は嬉しかった。

一番最後に表彰台にあがって首に金メダルを掛けてもら

い、国歌君が代の吹奏を聞いたときは、感激もひとしおでした。

試合が終って翌二日の観

光、リオデジャネイロの清潔

な感じの市街や海水浴場、コ

ルコバードの丘や巨大なキリ

スト像、ロープウェイでのポ

ン・デ・アスカル、やはり

絵はがきより実物がよい。二

日総領事館表敬のとき、西

林領事さんが、二日のブラ

ジル新聞を手にして、高齢者

参加の記事を話題にしてくれ

たこと、またブラジル講道館

という四試合常設の道場で

の熱のこもった交歓稽古、そ

のときマサオ・シノハラ氏と

のブラジル柔道のお話。二三、

二四日のイグアスの滝の観光、

この日、ブエノスアイレス市

に住む青森県五所川原市出身

の相馬英樹氏とお会いできた

こと(七月一五日、五所川原

市で国体青森県予選会があつ

たので、当市の年輩の方に伺

うと、相馬氏についてはよく

知っていました)、二五日、

ブエノスアイレス市の観光、

レコレータ墓地が印象的だつ

た。その夜のタンゴショーも

忘れ難い。二六日のガウチョ

ツアーも馬に乗ったり、ショー

も盛り上がって楽しかった。

サンパウロ新聞 São Paulo Shimbun 2007年6月21日(木曜日)

81歳・太田尚充八段も型で雄姿

42か国千人の選手出場 開世界マスターズ柔道大会

73歳、伯の青山選手、日本選手に快勝

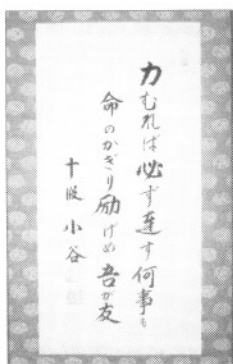
楽しみな日伯対戦

【本紙記者の野口尚充】柔道界の最高峰、世界マスターズ大会が、ブラジル・サンパウロ市で開幕した。今年で九回目を迎えるこの大会は、柔道界の最高峰であり、世界各国のトップ選手が集結する。今年も、日本代表として、太田尚充八段が参加している。太田氏は、今年で八十一歳になる。柔道界では、年齢に関わらず、技術と精神力で勝負する。太田氏は、今回の大会で、七十三歳の伯国代表の青山選手と対戦し、快勝した。この試合は、会場で大いに盛り上がり、観客の熱い声援が響き渡った。太田氏は、試合後、記者に「久しぶりの国際大会、とても楽しかった。これからも、柔道を通じて、世界と交流していきたい」と話した。

私はながい年月、曲がりなりにもずっと柔道を続けてやってきましたが、何かのはずみで、ふと虚脱感というか、心身の力が抜け落ちたような無力感に襲われることが度々ありました。現在でも起こり得るのですが、そのような時は、黙って次の掛軸と対面します。「力むれば必ず達す何事も命のかぎり励め吾が友 小谷十段」

小谷先生が昭和五九年(一九八四)四月二十七日十段になられたとき、是非にとお願いして書いてもらったものです。これを眺めて、直ぐにパッと目覚めるわけではありませんが、先生が特別に何も云わないで、私の目をちらとみつめて、渡してくれた情景を思い起こします。何日か経って、自分を励まし励まし、どうにかまた続けることができるようになったものでした。

この軸は、自宅の質素な床



の間の壁に年中掛っています。最近、この軸を読み返しているうちに、「精力善用」は、「生命力の全用」が基にあるんだと信ずるようになりました。このように、生き続けようと思っています。

初出場第九回世界マスターズ 柔道選手権大会

岡田庫二郎

(兵庫県 理事)

初めての海外旅行で飛行機に乗るのも初めてでしたが、皆様のお陰で楽しい思い出が沢山出来ました。本当に有難う御座います。さて試合の方ですが、外国人は力が強いと聞いて居りますが、一度は試合をしてみたいと思いい出場致しました。今回お陰様で念願がかなってイタリヤの選手と対戦することになりました。

出場時に小川先生より 寝技で取りました、頑張つて下さいと応援を頂き、ヨッシャーと私は立ち技で取るぞーと心に決めて試合場へ行き、小内刈り一本取りました。次の試合は相手の技をすかして小内刈り一本取ったように思っています。二勝一負で二位とな

りました。二十四時間もかかって出場したのに汗もかかず、三試合で計三分で終了しました。神技か、名人技かあるいは迷人技でしょう。

今まで沢山試合をしました。が、今回のように汗もかかず、試合をしたのは初めてです。良い方に考えると、継続は力なりとの言葉どうりやなと思います。と思うのは今年正月より小学生の通学時に交通安全のため登校時、下校時とに交差点にて立番をすることにしました。その立番時には足払い五百回下校時と同じく五百回と、一日千回の稽古です。そのお陰で、後の先ですか、咄嗟に足技が出たのかなーと思って居ります。また、二



メダルを胸に教え子と道場で岡田さん

勝一敗で勝ち越しや、次は三役、大関、横綱やと思つて柔道に励みますので、今後共御指導ご鞭撻を賜りますようお願いいたします。

見学の方ですが、総領事館表敬訪問を初め観光見学イグアスの滝、ブラジル側やアルゼンチン側より観光、市内タングシヨウ等の見学では、ビックリ、ゴツイ、スバラシイとオドロキ感心ばかりです。そして楽しい良い思い出が沢山出来喜んで居る毎日です。次はベルギーですか、行きたくまりました。その前に姫路でお会い致しましょう、楽しみに待つて居ります。

私ごとですが、独身者が半月も留守にしたので友人知人たちの知ることとなり、下は子供会から上は高年者会よりお声が掛り、特に朗友会の才以上納涼懇親昼食会には、昔々の娘さんより花束贈呈を受けました。少し恥ずかしかったですね。まずは七月はあつと言う間に終わりました。

今回はいろんな思い出が沢山出来ました。会長初め会員の皆様のお陰やと思つて居り、

今後柔道に励むつもりです。のでよろしく御指導願います。

世界マスターズ柔道大会に 初めて参加

山本健夫

(東京都 理事)

やはり遠い国ですね。帰つて一週間もするともう夢の出来事の様になりました。

戦績はこれ又夢のような好成绩。試合M9・66kg級と無差別級で金メダリストとなりました。66kgはまあ許されるとして、無差別はこんな非力な者が金メダルでは、マスターズの権威を傷付けそうで、必要以上に他人には云わない様にして

います。何のことはない、予想に反しゴリラの様な大男が出て来なかった結果なのです。でも、それも又拍子抜けで残念でした。基本的に柔道が世界に広がったのは、1964年の東京オリンピックの頃から、従つて年齢が高い人程マスターズ世界大会は日本人有利と云うことでしょう。

形の方にも2つ出場しました。練習をしていった筈の投の形が8組中8位。あまり練

習もしなかった固の形が12組中5位でした。

特に投の形は皆かなり高いレベルにあり、本格的裏投が決められない限り今後もメダルは難しいと思われます。1人の若者に年齢を聞いたら36歳とのこと、丁度我々の半分でした。技に切れがあり、動きに力強さがあるのも当然なのか。

さて、日本に帰つてから、海外の人々からもEメール、写真、DVD等が届きました。(小川栄一郎選手経由も含め)。これに関連し2つ程内容を紹介させて頂きます。



右端が山本さん、中央が小川さん

一つは、今回のマスターズ大会は運営がお粗末で、ブラジル人として恥ずかしかったと云うもの。これには驚きました。外国からの参加者が思うのは当然だったとしても、楽天的なブラジル人の中にもそう感じた人が居たと云うことです。尤も、私は少し良い加減な処がブラジル人の良い一面でもあると思っています。

二つ目は、ブラジル在住の日系人が、日本から来た我々を歓迎し、心で応援してくれていたと云うことです。無差別の表彰式の後、多数の日系人が寄ってきて写真を撮ったりにして祝福してくれました。

第9回世界マスターズ 柔道大会に初めて参加して

毛利修
(埼玉県)

2003年の10月まで国際協力機構 (JICA) のシニア・ボランティアとして南米のパラグアイで柔道指導に行っていた時、お別れパーティーの席で2007年にはまた来ると言っていました。2007年にはブラジル、リオデジャネイロ

で世界柔道選手権が開催されこととなって居り、その観戦も兼ねてまたパラグアイへ立ち寄ろう、と思つて咄嗟に出た言葉であつた。

時は過ぎて、その2007年に入り逡巡している頃、同じ丸の内柔道クラブの清家春夫先生から「マスターズで形」をやつてアルゼンチンに寄つて来よう」と誘われた。パラグアイにいた頃お世話になったアルゼンチンに山元先生と相馬先生がアルゼンチン柔道の重鎮として健在で、相馬先生は元々警視庁の出身でその当時清家先生とは同期であつた。世界選手権は日本で見て加しながらブエノスアイレスへ行く決心をした。

それにスイスのチューリッヒの近くでアメリカン・スクールの先生をやっている柔道の元生徒のJ君の道場で一汗かいてブラジルに向かうこととなった。6月13日成田を出発、同日の夜チューリッヒに着、次の日、夕方からJ君の道場へ。その道場は14、15名でこじんまりとしていて年配の人たちが多くほとんどが黒帯だつた。二時間ほどやつて終わつ

てから、みんな「魚をたべよう」と近くのレストランへゆきフライとビールで歓談した。通常はドイツ語だけれどみんな英語もうまくて安心した。お土産に牛の首につける大きなベルをもらった。こんなに歓待されるとは思っていなかったのが感激したが、始めてしかもたった2時間のおつきあいなのにまるで以前から知っていた人のようにうちとけてビールを交わし再会を約した。これも柔道の不思議な力なのかもしれないと思つた。

次の日アムステルダム経由でサンパウロへ向かったが、自分が81kg級の試合にでるのに3、4kgオーバー気味なのを思い出した。体重を気にするような試合に出ることがないので、飛行機の中ではヨグルトのみにして節制した。

6月17日(日)、日本からの選手団に合流。

形は、当初「護身術」を予定していたが今回から「五の形」が新しく種目に入ったとかで、この「五の形」を中心に勉強してきた。大会も近くなつたある日、ふと入った本

屋で太田尚充著「柔道を学びつつ」を見つけた。めずらしく多くのページが「五の形」に割かれて居り、その中で太田先生が「一本一本の意味するところイメージしながら全体的形の流れとして稽古しよう」と心がけている(P127)と語つて居られるのを見つけた。自分はそれまでは歩幅、歩数、回転のスピード、背筋の伸ばし方、腰の高さ、目線等々「形」ばかりにとらわれ「形」の意味するところを表現するには至つてなかった。

その先生が選手団の一員として来られているのを知つたのは出発直前の集まりであつた。太田先生の視線を意識しながら演ずるのは相当なプレッシャーであつたが、優れたパートナーである清家先生が受をやっていただいているのでその意味では開き直つてすることができた。結果、十数組終わつて、得点が一番高く金メダルとなつた。まさか、の結果である。

6月20日(水)、その朝の計量では80.3kgとゆとりを持って通過した。この組には同じ選手団の国重先生もいて、二人で軽く打ち込みをやつた。

うまくすれば決勝であたりたかなどと思つた、などと勝手な想像をした。残念ながら二人とも敗れてともに三位銅メダルに終わった。

その後イグアスの滝の見学からブエノスアイレスへゆき、飛行機が遅れてそこでの相馬先生、山元先生とのその日の飲み会はキャンセルとなつてしまつたが、次の日の夕刻僅かな時間であつたが清家先生は数十年ぶりの再会を果たした。ブエノスアイレスは寒かつた。

6月26日、ここで本隊とはお別れしてパラグアイに向かつた。ブエノスアイレスで風邪を引いてしまつたが、安河内先生にもらつた薬でこれを抑



五の形で金メダルの毛利(左)清家(右)組

え込み、生徒達やパラグアイ柔道連盟の会長にも暖かく迎えられる、“アサド”（パラグアイの焼き肉）も食べて楽しい一週間を過ごした。

はじめてのマスターズであったが、思い出に残る旅となった。このような機会を与えてくださったマスターズの野口会長、清水副会長など諸先生方に感謝しながら拙文を終わります。

ブラジル・アルゼンチン道中記

国重敏明

（香川県）

一、どたばた出発記

14日出発前です。来田さんから買って頂いた新幹線の切符・ホテルの宿泊券が見あたらず、家、車等、あらゆる場所を捜したが残念なかつた。明日JRで切符を再度買おうと思う。15日朝愛犬エンディの大小屋にあった。私の出発をやめさそうか、それとも忘れん坊の私の為を思って預かったのか、これで安心。12時待合せのJR高松で来田さんと合流、家内が足が心配で見送ってくれる。来田さんにくれぐれも足が悪い為無理をしない

ようにとお願ひしていた。汽車に乗る時、来田さんが今度は「パスポートを忘れた」と家に帰る。岡山で一時間待っていたところ来田さんがふういながら到着、間に合っただけとする。順調に滑り出したと思っていたところ新横浜駅で急停車、投身自殺との事、一時間遅れとなる。成田6時着のところ9時着となった。来田さんと明日からの無事を祈って乾杯する。

二、世界マスターズ大会

十九日の形の試合。約三十年間形をやってきたのに世界ではこれ程までに出来るのかと感嘆、びっくりする。特に金メダルの古式の形、五の形が印象に残る。デモンストレーションの大森さん横山さんの鑑での古式の形は大人気でした。

余談ですが、もうひとつびっくりは軽量中の模様です。体重の重い人は皆すっぽんぽんでした。世界中の男子を見たという気がしました。

練習場で久しぶりの打ち込み練習。高橋勘十さんの小内、大内、体落しの妙技。感心しながら教えを乞う。76歳でこ

の技、やはりNHKの柔道名人といわれる人と納得する。交代しながらの練習、気持ち良かった。早く就寝する。

二十日。いよいよ試合。十年ぶりの試合でなにか昔にかえった気持ち。どきどき感がたまらなかつた。一回戦、組んで思い切り掛けた払い腰、きれいに決まり一本。足の不安なし。二回戦ブラジル人、組んですぐ痛めた足を攻められギブアップ、抑え込み一本負け。敗者復活戦に足を攻められないことを祈りつつ試合。寝技名人との事、立ち技で攻めてこなかつたこと幸い。どうにか大外刈で勝ち三位に入賞。念願の3試合出来たこと幸せに感じ、来年は足を完治させ、ベルギーに出場したいと思った。

十年ぶりの柔道の試合、本当に嬉しかった。楽しかった。

三、観光

(1) 世界三大美港、リオデジャネイロの港、オーストラリア・シドニーの港、イタリア・ヴェニス港とか、本当に美しい港でした。あっと息をのむような景色でした。

それに紀元前2000年頃ギリシャの哲学者フィロンが選んだ世界7不思議が、今エジプト・ギザのピラミッドしか残っていないので、1999年に選び直したのが、①リオデジャネイロの丘のキリスト像、②中国の万里の長城、③メキシコ チチェン・イシアのマヤ遺跡、④ペルー

マチュピチュのインカ遺跡、⑤ヨルダンのペトラ遺跡、⑥ローマのコロッセウム、⑦インド タージマハールとか、観光出来て幸せ。

(2) イグアスの滝は世界三大滝のひとつ。一生に一度見られただけで幸せでした。カナダ大会に出場した人は、ナイアガラ滝を見たとの事。私もナイアガラ滝も一度見てみたい。

(3) タンゴ・ショウ、ガウチョ・ショウ。私は美的感覚がないせいか、リオの港、イグアスの滝ほど感激はなかつた。残念。

四、旅行中少し残念に思ったこと
(1) 飛行機の中でやはり同行の人は隣同士に席を取って

欲しかった。トイレ、食事、話など長い旅での会話が出来るにこかつた事。

(2) リオの添乗員の女、少しヒステリックになりやすい人、もう少しやさしい人を選んで欲しかった。

(3) サンパウロで添乗員に絵はがき23通6月20日に



リオのキリスト像の前で

お願いしたところ、8月6日になつても届いていないこと。皆さん、出したとの事、信用してくださらない。残念。絵はがきはブラジル出身の松本淳さんに捜し回ってもらった。徹夜で書いて同室の森本唯行さんに迷惑をかけてまでブラジル紀行を知らせたが、一通も届かなかつたこと。

五、思つてもみなかつた事
(1) 50年前に母を訪ねて三千里、マルコの旅を読んで全

く予期せぬアルゼンチンの港を見て感激、イタリアのマルコがイタリア、フランス、スペイン、アフリカ、ブラジル、アルゼンチンに旅した7才か8才の少年の物語に感激したことが思い出されました。

(2) アルゼンチンの相馬さん。昭和37年の秋田国体に出場して弟健治と知り合いとは奇遇でした。アルゼンチンで治療院を営んでいるとのこと、ご健勝を祈りつつおかわりました。

六、お世話になった方
旅行9泊ホテルで同室になった人、森本唯行さんに感謝申し上げます。足の痛いところをマッサージ、鍼灸で治療して頂き、無事試合できたこと同じ四国出身ということ、弟のように接して頂き、夜のキャンプドールのうまかったこと、毎晩のように処世術、家族のこと、柔道、相撲、接骨のことを話して頂き、勉強になりました。

七、マスターズに参加してこの旅行二週間で思った事は
①会長を中心に家族ぐるみで皆親切です。

②私も仲間になり日本、世界マスターズに参加したいという意欲がわいたこと

③一人でも二人でも香川から参加者をつのりメンバーを増やすこと

④再開を楽しみにしております。

⑤自分自身をもう一度鍛え直すチャンスと思います。

⑥初出場の私を真の友として扱って頂き、心から感謝いたします。

地球の反対側で国際親善

清家春夫

(千葉県 副会長)

平成十九年六月十六日から六月二十八日まで九泊一三日間の旅、第九回世界マスターズ柔道ブラジル・サンパウロ大会をメインにしたツアーに夫婦で参加した。

サンパウロ、イグアス、ブエノスアイレスなど地球の反対側になる南米地域を回り、柔道を通じての国際親善、自然・歴史・文化との出会い、土地の人々との交流など充実した旅を満喫することができた。

◆形の演技

六月十九日、大会初日の形の部では、古式の形(取・清水正敬、受・清家)、五の形(取・毛利修、受・清家)、柔の形(取・清家、受・安河内浩)の三種目に挑戦し、古式の形と五の形で初めて金メダルを獲得した。

古式の形は、ブラジルの日系人内田、カルロス組が三大会連続で優勝しており、厳しい闘いになることを予想していたので、優勝できた喜びは大きかったように思う。

柔の形は、入勝できなかったが、安河内先生の地道な努力と熱い精進ぶりに励まされ、練習以上の演技ができたように感じ満足することができた。

六月二〇日の個人試合は、M七・八一kg(六〇〜六四歳、八一kg以下)に参加、出場者は八人、対戦相手はオーストラリア人、アメリカ人などすべて外国人で三戦三勝し金メダル、形の部と合わせて三個の金メダルを手にする事ができた。

◆サンパウロでの交歓稽古
六月二二日、午後六時ごろからオリンピックアリーナ

(通称・南米講道館)においてブラジル柔道関係者二〇人、日本選手団二六人による柔道の交歓稽古が行われた。

乱取三人目の相手は、ミュンヘンオリンピック(昭和四七年)で初の銅メダルをブラジルにもたらした石井千秋先生。大きな体で体落、大内刈など積極的に攻めて来る。これに耐えながら、内股・大外刈などで反撃するが崩れない。一瞬、タイミングの良い体落で見事に投げられ、納得する。息を荒げながら意欲的に攻め続ける姿は、生涯柔道の模範のように思われ敬服した。

◆40年ぶりに同期生と再会

六月二六日の夜、ブエノスアイレスのホテルで警視庁警察学校時代の同期生、柔道仲間であった相馬英樹君(柔道八段・相撲五段)に会うことができた。四〇年ぶりの再開であり、立派になった姿を見て感激した。

相馬君は警視庁の柔道助教となり、柔道を続けていたが、昭和四六年、海外青年協力隊員として柔道指導のためアルゼンチンへ派遣となった。同国では柔道ナショナルチー

ムのコーチとして活躍していたが、そのまま柔道を続け、ブエノスアイレスで三十七年間、柔道指導と普及に努めてきた。現在は、結婚したアルゼンチン女性と「健康堂相馬治療院、健康堂指圧整体教室」を営みながら軍隊の将校に柔道の指導をしている。

日本と反対側にある最も遠い国で、同期生と四〇年ぶりに再開できたことは、柔道仲間の「絆」が大きな縁になったように思う。

相馬君から現地での苦労話や活躍ぶりを聞いて、同期の柔道仲間としての誇りを感じ、柔道の素晴らしさを再認識することができた。



左から毛利さん、相馬さん、清家ご夫妻

バリ島仙石道場を訪問して

勝呂 孝

(埼玉県 常務理事)

去る6月15日より5日間
バリ島の同月2日開所したばかりの仙石道場を訪問、仙石氏と一緒に現地の若者たちと柔道を通じて楽しい交流をしてきました。

デンパサールから車で約1時間、ギアニヤールという奥地に突然大きな立派な建物が見え、それが氏の全私財を投じて完成した道場でした。開所式間際まで同国特有の非効率な頑固な官僚主義に悩まされたといえます。中には中古品とは思えないきれいな畳が入り、試合場が2面取れています。

生徒たちはこれまた日本各地から送られた柔道着を着てがんばっています。下は近所の小学生から上は大人、奥さんまで顔ぶれ多彩です。ただし、指導員は仙石氏のほかは現地の人がばかり。見よう見まねで覚えたようできちんと修行したとは思えません。これでは仙石氏が大変です。それでも生徒全員一生懸命な様子がとても印象的でした。
バリ島といえば日本人は皆



柔道着姿 右:仙石先生、左:勝呂さん

金持ち、デラックスなホテルで美容にレジャーにとうつつを抜かしているのとられがちです。そんな中で日本の武道精神を広めるべく奮闘している氏の姿はひとときわ輝いて見えます。心ある柔道家の皆さん、ぜひ機会を見つけて同地をたづね、仙石氏を応援してください。これこそが日本人本来の姿であると彼らに示してやろうではありませんか。
東京葛飾区奥様が理事長の窓口がありますので連絡はすぐ取れます。
「柔道で世界と手をつなぐ育成クラブ」 TEL24-0054 東京都葛飾区高砂3-2-3
電話・FAX 03-3658-6600
<http://candibali.net/sengok>
簡単ですがご報告まで。

安房高校で柔道合宿

石邑 勇

(千葉県 常務理事)

日本マスターズ柔道協会会長野口宏水会長以下9名の選手団は、平成19年3月16日(金)と17日(土)の両日、中村茂晴先生と上木保夫先生の出身校である千葉県南房総市の県立安房高等学校において柔道の合宿練習を行いました。

選手団は3月16日(金)午前9時30分、安房高校の柔道場に到着、道場の広さは383㎡、畳数約250畳の大道場であり、道場の壁には醍醐敏十段が全日本柔道選手権大会で優勝した時の写真や、篠巻政利選手をはじめ歴戦の雄の写真等が整然と飾られ、まさしく武道の殿堂というのにふさわしい感じでした。

午前10時、道場に整列、黙想、坐礼をした後、野口宏水会長挨拶、準備運動の後、高橋勘十先生による技の説明、マスターズ柔道協会のみなさんは良くご存知のとおり、高橋勘十先生は「投げ技」の名人であり、この日は特に、「足技」で相手を投げる時の釣り手の使い方や崩し方等について詳しく解説をしてくれ

ました。この日の合宿練習は、安房高校柔道部の生徒だけではなく近隣の高校、中学校及び各柔道塾等に通う子供達が約60名参加し、高橋先生に教わった技を反復練習、解らなくなると先生に質問をしながら自分なりに研究し、以後の乱取稽古で腕試しをしていました。

二日目の3月17日(土)午前9時、合宿練習への参加者が更に増えて総勢約80名になりました。清家春夫先生による寝技による寝技の指導、鈴木治雄先生と石邑勇による「投げの形」の演武の後、高橋勘十先生からは昨日習った「投げ技」について更に細か

いとところまで指導していただきました。道場の壁や羽目板に向かっの「大内刈」の単独打ち込み等、高橋先生独特の練習法は、柔道を指導する私達にも大変参考になりました。

午前10時、乱取稽古開始、茨城県から杉原尚先生も掛けつけてくれました。この日の合宿練習は昨日以上に熱が入り、ライバル同士で切磋琢磨、終始真剣な眼差しで稽古に取り組んでいました。



午前12時、稽古終了、道場に整列し、一礼をした後全員で記念撮影、ちようどこの頃、JR館山駅の方から汽笛の音が聞こえてきました。鉄道百周年ということ、蒸気機関車が館山駅を通過しているようでした。マスターズ柔道選手団は、柔道着をカバンに詰め、安房高校を後に、第二道場である旅館の宴会場に向かいました。

【編集後記】 最も遠い国だった為か、気持のこもった字数の多いお便りが多く、紙面の都合で大分文章の一部を割愛させて頂きました。写真も最小限になりました。ホームページの一層の活用を考える時期に来ているのでしょうか。では十月に姫路で。(kn)